

コロナ禍の研修医が求める支援体制を調査

指導医のサポートがコロナ禍の初期臨床研修医を支える

【本件のポイント】

- コロナ禍による臨床経験の不足から研修医は不安を感じている
- 研修医は通常時より具体的な指導を求めていることが判明
- コロナ禍は研修医により強い自立心とプロ意識を芽生えさせた

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）教育センター（センター長・西屋克己）林幹雄助教、小児科学講座金子一成教授らの研究チームは、コロナ禍で卒後臨床研修を開始する臨床研修医らがどのような支援を具体的に必要としているかを明らかにしました。

本研究は、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨床実習の中断を経験した51名の研修医を対象に質的記述的研究*1を実施し、分析された結果はSWOT分析*2を用いて分類しました。研究により、臨床研修医らが臨床実習の中断による臨床経験の不足から臨床への不安感や懸念を感じていることが明らかにされ、これらを補うために指導医からより直接的かつ具体的な指導、フィードバックを求めていることが判明しました。一方で、自主学習に対する意欲の高まりも見受けられ、これらを効率的、効果的に行うためにも同僚や指導医と良好な関係を構築することが重要であることも明らかになり、今後、指導医が臨床研修医への支援体制を検証する際の指針となることが期待されます。

なお、本研究についてまとめた論文が3月30日（水）付で科学誌「PLOS ONE」に掲載されました。

1

■ 書誌情報

掲 載 誌	「PLOS ONE」 (DOI: 10.1371/journal.pone.0266284)
論文タイトル	Transition from undergraduates to residents: A SWOT analysis of the expectations and concerns of Japanese medical graduates during the COVID-19 pandemic
筆 者	Mikio Hayashi, Katsumi Nishiya, Kazunari Kaneko

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（畑森・中村）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

別添資料

<本研究の背景>

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、2021年度より卒後臨床研修を開始する初期臨床研修医は、卒前臨床実習における臨床経験が不足した状態で研修を開始することが想定されていました。本研究はこれから卒後臨床研修を開始する初期臨床研修医の立場から、彼ら自身がどのような支援を具体的に必要としているかをあきらかにすることを目的として質的記述的研究を行いました。本研究結果により、指導医が初期臨床研修医に対するコロナ禍での研修指導内容を検討する上で重要な情報源になると考えました。

<本研究の概要>

コロナ禍による臨床実習の中断を経験した研修医1年目の51名（平均年齢26.5歳、範囲24-41歳）を対象（※表1）にインタビュー調査を実施し、分析された結果はSWOT分析を用いて分類しました。

※表1

研究参加者の詳細	フォーカスグループ (%)	個別インタビュー (%)
性別		
女性	25 (49)	6 (50)
男性	26 (51)	6 (50)
出身大学		
関西医科大学	31 (61)	6 (50)
その他大学	20 (39)	6 (50)
合計	51	12

2

SWOT分析

強み (Strength) コロナ禍におけるレジリエンス ストレス対処 プロフェッショナルリズムの自覚 厳重な感染予防対策と体調管理 自己効力感	弱み (Weakness) 患者との良好な関係構築 シミュレーション教育の限界 精確な診察手技への不安 業務における不慣れ感 指導医や他職種への気遣い
機会 (Opportunity) 患者との丁寧なコミュニケーション 自己主導型学習 即戦力としての期待 指導医との関係構築 研修医間のコミュニティ形成	脅威 (Threat) 限定的なキャリア選択の機会 社会人としての適応 厳重な感染予防対策に伴うストレス 不確実性を伴う研修環境

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（畑森・中村）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

PRESS RELEASE



<本研究の結果>

コロナ禍による臨床実習の中断は、一様に否定的なものばかりでなく、研修医の自主学習への意欲を高め、臨床研修を開始するにあたり、より強い自立心とプロ意識を芽生えさせる結果につながったことが判明しました。また、臨床実習の中断による臨床経験の不足から臨床に対する不安を感じている臨床研修医も多く、この経験不足を補うための明確な研修方針や充実したマニュアル作成、また指導医からの直接的かつ具体的なサポートを求めていることも明らかにしました。

<本研究の意義>

今回の研究成果は、コロナ禍における臨床研修医の潜在的な不安感を可視化したことにより、今後、指導医が臨床研修医への支援体制を検証する際の指針となりえます。

<将来への展望>

本研究により、臨床研修医らの臨床研修に対する期待や懸念を理解するのに SWOT 分析がさらに活用されることが期待されます。また、本研究で明らかになった研修医の潜在的な強みと懸念が、現在のコロナ禍にとどまらず、現場でどのように活用されているかを探ることも、今後の研究の有効な道筋になることが期待されています。

用語説明

***1 質的記述的研究**

質的研究の一手法であり、研究対象となる出来事の包括的な要約を記述するもの。同研究はさまざまな医療機関における現象を記述する際に用いられる研究手法であり、本研究でも同様の手法を用いた。

***2 SWOT 分析**

SWOT 分析とは、外部環境や内部環境を強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) の 4 つのカテゴリーで要因分析し評価を行う手法。

<本件研究に関するお問合せ先>

学校法人関西医科大学

教育センター

林 幹雄

大阪府枚方市新町 2-5-1

TEL：072-804-0101 (代表)

E-mail：hayasmik@hirakata.kmu.ac.jp

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室 (畑森・中村)

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp